

情報通信審議会 情報通信技術分科会 移動通信システム委員会
920MHz 帯電子タグシステム等検討作業班（第1回）議事要旨（案）

1 日時

平成 23 年 2 月 22 日（火） 15 : 00~16 : 20

2 場所

金融庁 9 階 905B 会議室

3 出席者（敬称略）

主 任 : 門脇（（独）情報通信研究機構）

構 成 員 : 広池（（社）電波産業会）、井上（日本電信電話（株））、大井（凸版印刷（株））、小田（KDDI（株））、川田（東京ガス（株））、佐々木（パナソニック（株））、田中（ソフトバンクモバイル（株））、中川（代理：小竹（財）テレコムエンジニアリングセンター）、中畑（代理：立石（社）日本自動認識システム協会）、中村（大日本印刷（株））、仁井（東京電力（株））、西本（（財）移動無線センター）、二宮（（株）富士通研究所）、福永（沖電気工業（株））、三次（慶應義塾大学）、山崎（三菱電機（株））

説 明 員 : 村尾（パナソニックシステムネットワークス（株））、島田（横河電機（株））

事 務 局 : 田原、越後、竹村、和田、服部（総務省移動通信課）

4 配布資料

資料 920MHz 帯作 1-1	「920MHz 帯電子タグシステム等に関する技術的条件」の審議について	事務局
資料920MHz帯作1-2	920MHz 帯電子タグシステム等の技術的条件に関する調査の進め方	事務局
資料920MHz帯作1-3	移動通信システム委員会運営方針	事務局
資料920MHz帯作1-4	920MHz 帯電子タグシステム等検討作業班運営方針（案）	事務局
資料920MHz帯作1-5	携帯電話等高度化委員会 700/900MHz 帯に導入する技術的条件の検討	ソフトバンクモバイル パナソニック
資料920MHz帯作1-6	920MHz 帯近距離通信システムの技術的条件の検討に関する基本方針	エビータスネットワーク ゲフォーラム
資料920MHz帯作1-7	920MHz 帯電子タグシステム等の技術的条件の検討について（パッシブシステム）	日本自動認識システム協会
資料920MHz帯作1-8	「920MHz 帯電子タグシステム等に関する技術的条件」についての意見	横河電機
参考資料 1	移動通信システム委員会構成員名簿	事務局
参考資料 2	920MHz 帯電子タグシステム等検討作業班構成員名簿	事務局
参考資料 3	「ワイヤレスブロードバンド実現のための周波数検討ワーキンググループ」とりまとめについて	事務局
参考資料 4	関係者からの意見聴取	事務局

5 議事

(1) 920MHz 帯電子タグシステム等の技術的条件の審議開始及び調査の進め方について

事務局より、資料 920MHz 帯作 1-1、資料 920MHz 帯作 1-2 に基づき、920MHz 帯電子タグシステム等の技術的条件の審議開始及び平成 23 年 2 月 21 日に行われた移動通信システム委員会にて承認された調査の進め方について説明があった。

また、門脇主任より、本件の調査に当たっては、ユビキタスネットワークワーキングフォーラム UHF 帯電子タグシステム標準化 WG に技術的条件の検討に協力いただく旨発言があった。

(2) 作業班の運営方針について

事務局より、資料 920MHz 帯作 1-3 に基づき移動通信システム委員会運営方針の報告及び資料 920MHz 帯作 1-4 に基づき 920MHz 帯電子タグシステム等検討作業班の運営方針(案)の説明があった。920MHz 帯電子タグシステム等検討作業班の運営方針(案)は特段の異議なく承認された。運営方針に則り、電波産業会 広池構成員が主任代理に指名された。

(3) 920MHz 帯電子タグシステム等と他システムとの干渉検討について(携帯電話等高度化委員会における検討結果)

ソフトバンクモバイル 田中構成員及びパナソニック 佐々木構成員の陪席である村尾説明員より、資料 920MHz 帯作 1-5 に基づき、携帯電話等高度化委員会 700/900MHz 帯に導入するシステムに係る干渉検討結果について説明があった。

(4) 関係者からの取組状況報告について

ユビキタスネットワークワーキングフォーラム UHF 帯電子タグシステム標準化 WG 主査の佐々木構成員より、資料 920MHz 帯作 1-6 に基づき、同 WG の取組の基本方針について説明があった。

主なやりとりは以下のとおり。

三次構成員 : ご説明いただいた件について 3 点質問がある。まず、欧州の周波数帯域は 916.3~920.9 と認識していたが、資料の周波数は 917~922MHz となっており、ずれているのではないか。また、国際競争力の観点を考慮すると、欧州と歩調を合わせ、チャンネル幅は 400kHz もあり得るのではないか。最後に、欧米ではアクティブタグとパッシブタグは周波数帯を分けていないのに、日本で分けるという選択肢があるのはなぜか。

佐々木構成員 : 1 点目については、下は 915.5MHz という話もあり、欧州において現在検討中で流動的であると認識。今後注視していきたい。チャンネル幅については、パッシブタグ関係者の見解を伺う必要がある。3 点目は、今後議論していきたいと考えているが、事実として複数のメーカーからアクティブタグとパッシブタグの周波数帯を分けてほしいという要望がある。

続いて、(社)日本自動認識システム協会立石代理人より、資料 920MHz 帯作 1-7 に基

づき、日本自動認識システム協会の基本的な考え方について説明があった。

最後に、横河電機島田説明員より、資料 920MHz 帯作 1-8 に基づき、ワイヤレスセンサーネットワークの観点からの提案について説明があった。

主なやりとりは以下のとおり。

門 脇 主 任 : 様々な要望があると思うが、これら意見を踏まえてユビキタスネットワークキングフォーラム UHF 帯電子タグシステム標準化 WG で検討いただくという理解でよいか。

佐々木構成員 : 各社の要求はヒアリングしており、それら意見を踏まえ検討していく。

仁井構成員 : 東京電力でもスマートメータに関する実証実験を行っている。具体的な適用条件を考慮して、ご議論いただきたい。

門 脇 主 任 : 周波数再編の目玉の一つとなる検討であるので、是非熱心なご議論をお願いしたい。

三 次 構 成 員 : 短い期間で効率的な審議を行うため、用語の定義として、「ガードバンド」と「スマートメータ」について定義を明確にする必要がある。

例えば高出力型パッシブタグは、950MHz 以下の携帯電話を考慮し、実質周波数を離し 952MHz 以上としているが、これをガードバンドとするのかどうか。また、アプリケーションイメージが強いスマートメータは、どのような周波数共用技術を有するものなのか等の技術的な定義を明確にする必要がある。

門 脇 主 任 : これまでの話及び参考資料 4 にある、移動通信システム委員会での意見陳述の内容も踏まえ、議論を進めてほしい。

(5) その他について

事務局より、次回の作業班は 3 月上旬とし、詳細については主任と相談の上別途連絡する旨連絡があった。

以上